

Human ヒューマン

2021.2 Vol.16

文化を学ぶ 世界と繋がる

CONTENTS

02 特集

現役学生が

教授に **訊**く

04 活躍する学生インタビュー

05 人文学部における オンライン授業の取り組みについて (2020 年度)

06 ゼミ紹介

日本文学科 片岡 耕平 3年ゼミ (1部)
英米文化学科 小柳 敦史 3年ゼミ (1部)

07 就活応援 4年生からの体験談

裏表紙 人文学部 TOPICS

人文学部第8回大会／
第8回北海道観光地域振興特別講座／
学部3年生主催のゼミ説明会／学生への食糧支援プロジェクト





現役学生が 教授に



大学ではどんな研究・授業をしているのか？
どうして今の研究テーマを選んだのか？
人文学部・田中綾教授と現役学生との
対談を通じてご紹介いたします！

人文学部日本文化学科 教授 田中 綾

札幌市生まれ。札幌平岸高校を卒業。2008年に着任。2017年より、旭川市にある三浦綾子記念文学館館長。

担当 科目

- 1年生「人文学基礎演習」＝大学での学びのスキルを指導
- 1～4年生「日本文学史Ⅱ」＝明治～昭和初期の日本文学史
- 2年生「人文学演習」＝短歌の創作と鑑賞、合同歌集の制作
- 3年生「日本文化専門演習」＝〈異界〉文学を読む、文芸誌の制作
- 3・4年生「日本文学特論Ⅱ」＝三浦綾子の小説を読む
- 4年生「卒業研究」＝論文と創作の指導

※「演習(ゼミ)」とは＝学生が主体的に参加する、少人数のクラス



インタビュー

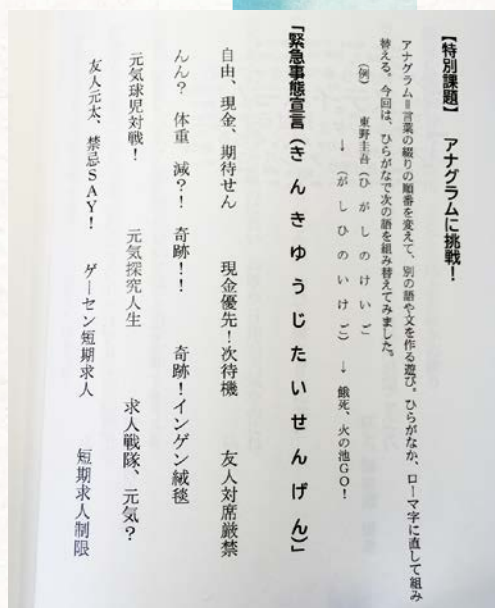
人文学部1部
日本文化学科1年

川口 毅

基礎演習でレポートを書いた、
丸山真男『日本の思想』を手に



ここ数年の合同歌集 タイトルも、表紙のイラストも、学生たちによるものです



アナグラム ほか、「球児、対戦厳禁!」もあり、今年の甲子園を予言していたような?

川口 高校生とも接点があるとうかがいましたが。

田中 そうですね、高校生向けの「出前講義」も毎年担当していますし、「全道高等学校新聞コンクール」の審査員も今年で3年目です。高文連の文芸研究大会では、「短歌ワークショップ」なども担当しましたよ。

川口 短歌といえば、2年生の「人文学演習」では、短歌を作り、合同歌集も作るそうですね。

田中 はい、今年はまず「アナグラム」に挑戦しました。言葉のつづりの順番を変えて、別の語や文を作る“遊び”で、たとえば、「緊急事態宣言→きんきゆうじたいせんげん→(順番を変えて→)じゆうげんきんきたいせん→自由、現金、期待せん」。学生の作ですが、この自在な発想すごいでしょう!

遊んでいるようですが、「そもそも言語とは何だろう?」ということを考える糸口にもなるものなんですよ。

川口 なるほど、「言語の恣意性」を意識したものですね。これも人文学部ならではの研究対象ですね。アナグラムに挑戦してみましたが、なかなか思いつかないですね(笑)。

田中 ほかに、「SNSふりがな」短歌にも挑戦してもらいました。【右下参照】ツイッター ライン スマートフォン「人間監視鳥」「生存確認監視塔」「精神安定剤」など、SNS等をふりがなににして、それにあてはまる熟語を考えてもらう課題です。

これも遊んでいるようで、実は、日本文学史の学びの1つ。ふりがなテクニックは、江戸時代の職業作家も使っていたもので、ふりがなと漢字とで、二重の意味を味わえるわけです。近代小説の先駆者・二葉亭四迷の『浮雲』にもしゃれたふりがなが多く、学生たち自身にも体験してもらおうと思って、毎年この「SNSふりがな」課題を続けています。

川口 なぜ短歌なんですか?

田中 いい質問ですね。実は私、大学4年生から「歌人」の肩書もあるので。短歌雑誌の原稿を書くうちに、短歌で、古代歌謡から現代短歌まで数千年の日本文化を考えることができる、と発見!『古事記』や『万葉集』、勅撰和

歌集、『源氏物語』にも和歌が多く出てきますし、戦国武将たちの「辞世」も短歌。明治以降も、天皇の御製から兵隊たちの短歌、教科書でおなじみの与謝野晶子や斎藤茂吉らの短歌まで、いろいろあります。

新型コロナウイルス感染症についても、これまで、療養者や難病の患者さんたちの短歌の歴史があり、さらに、医療従事者の短歌の歴史もあるので、短歌を追うだけで数千年の日本史を考えることもできるんです。

川口 短歌は、日本の歴史と文化を考えるツールでもあるんですね。

田中 そう。「基礎演習」のとき、川口さんが指摘してくれたように、歴史は勝者の記録。短歌は、そんな記録からとりこぼされてしまう一般の生活者や、いわゆる社会的弱者、底辺に置かれてしまう人々も参加できる文芸として、存在感があると考えています。

川口 三浦綾子記念文学館の館長でもいらっしゃるそうですね。

田中 はい。3、4年生の科目では、文学館の収蔵資料を活かしながら、三浦綾子の小説を解説しています。ちなみに、三浦綾子さんも夫の三浦光世さんも短歌を作っていて、二人の合同歌集もあるんですよ。

川口 そのように作家個人に注目した授業もあるんですね、知りませんでした。

田中 三浦綾子は旭川出身で、代表作『氷点』『塩狩峠』などには北海道の風景が多く描かれているので、学生たちにも読みやすいようです。

ところで、逆インタビューしちゃいます(笑)。川口さんは、卒業後は出版社に勤めたいそうですね。

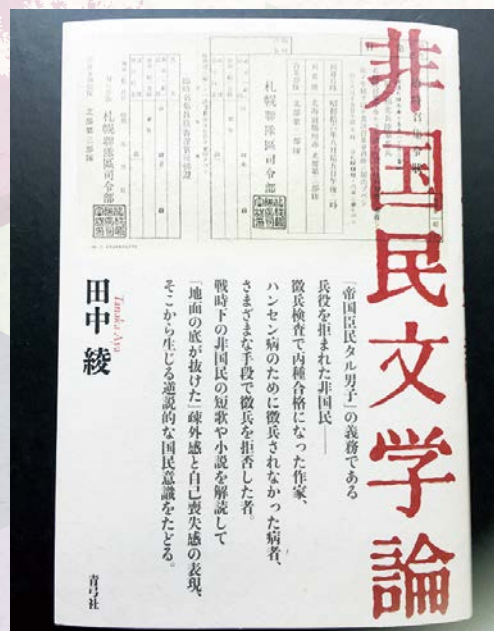
川口 はい、とりわけ岩波書店への勤務を考えています。理由は、岩波文庫の『方法序説』を読んだ時に、末尾の岩波茂雄氏の『読書に寄す』の文章が新鮮に感じたからです。ほんの100年前までは未だ知識の取得は一部の限られた層だけができた特権的行為と知りました。そうして現在と比べてみると、現在は知識を学ぶ方法や手段は益々容易に、かつ平等になっていますが、殆どの人は知識取得をしようとはしません。この対比は面白いです。当時は知識が監禁されていた故に民衆はそれを解放しようと試みましたが、他方で、現代人はありふれている為に興味を示さなくなりました。

田中 たしかに現代は、インターネットで何でも検索できて、考えること自体をアウトソーシング(外注)している状況ですからね……。私も学生時代、出版社や放送局に就職したいと思っていて、広告代理店でアルバイトもしていました。その辺りはまたゆっくりお話ししましょう!

(このインタビューは2020年に遠隔で行いました)



ゼミ芸誌 これは1部の「A207」 文庫本も刊行しました



「非国民文学論」 田中綾先生の近刊。青弓社より、2020年に刊行。

「SNSふりがな」短歌
2020年度1部人文学演習A
合同歌集「歌籠」より

心無い鳴き声を吐く
ツィッター

人間監視鳥
ツィッター

今日も誰かの
心を突き刺す

承認欲求
ツィッター

目先のハートに囚われて
リアル

視力低下現実がぼやける
リアル

生存確認監視塔の
既読がつかなきや

何なんだ。

私の時間は私のものだ。

精神安定剤
スマートフォン

無かった頃に
戻れない増えてく量に

溺れる私

困ったら
スマートフォン

hey!と呼んで
スマートフォン

問い合わせ
スマートフォン

何でもいい
スマートフォン

二十四時間営業便利屋
スマートフォン

二十四時間営業便利屋
スマートフォン

活躍する学生インタビュー

INTERVIEW

北海学園大学人文学部を卒業し、現在本学大学院文学研究科修士課程1年の蟬塚咲衣さんは、民俗学を研究しています。学部生のころから学術雑誌に論文が掲載されたり、大学院進学後も自身の研究が国際的な賞を受賞したりするなど、めざましい活躍が続いています。そんな蟬塚さんに、人文学部を志望した理由や、学生時代の思い出、ご自身の研究についてインタビューしました。



Q1 どのような高校時代を過ごしていましたか？

札幌平岸高校では、習い事(クラシックバレエ)と、部活(アンラグドギター部)を両立しつつ、毎日の課題とテストに追われる日々を送っていました。

Q2 北海学園大学人文学部に進学した理由を教えてください。

国内の博物館巡りが好きで、日本文化学科に進学しました。英米文化学科の授業も受講することができるため、多角的な視点を身につけられると思ったからです。また、学芸員資格の取得を目標にしていたので、学芸員課程が設置されているという点も決め手になりました。

Q3 なぜ民俗学に興味をもったのですか。

私は入学時に、専門にしたい学問が定まっていなかったため、履修した1つ1つの授業を大切にしながら自分が何を学びたいのかを見定めていきました。人から話を聞くことが好きで、その地域の住民の方だからこそ知っている、その土地の歴史や文化、経験といった「民俗知」に関心がありました。最終的には、大学3年次に文化人類学・民族考古学・博物館学を学ぶことができる、手塚薫ゼミを選択しました。

Q4 学部では、どのように勉強・研究をつづけてきたのですか。

学部在学中は、学芸員課程の研修に積極的に参加し、奥尻島、礼文島、石巻市(宮城県)、新ひだか町などを訪れ、発掘調査や文化財保護活動など様々な経験をしました。3年次に研究のフィールドを奥尻島に定め、研修で行った調査の結果をもとに、学会発表や論文投稿にも挑戦しました。

ゼミの教員から本校で開講されている「地理情報システム論」の履修を勧められ、3年次に受講しました。前期開講の「地理情報システム論」では、GIS(地理情報システム)の基本操作を学びました。GISとは、地上



の事物や現象に関する位置情報を地図上に可視化し分析するための手法です。後期開講の「応用地理情報システム論」では、実践的な分析方法を身につけ、個人の研究テーマに実際にGISを適用し、授業の最後に研究発表を行いました。他学部の学生の分析結果も刺激になり、前・後期を通して学んだことで、私が現在研究している「記憶地図」や「祭礼情報の可視化」といったテーマを深める際に大変役立ちました。

Q5 学部時代に勉強以外に熱中したことはありますか。

上記の活動や、文化施設に関わるインターンが予想以上に充実していたため、アルバイトやサークル活動はあまり行えませんでした。

Q6 現在の研究テーマはなんですか。

奥尻島の祭礼全般を研究しています。島の各地区で行われている神社の例大祭や、観光の目玉にもなっている「奥尻三大祭」など、1つの島でも祭礼によって特色があることが面白く、住民の方々からお話をうかがいながら楽しく研究しています。また、祭礼は地域の歴史や文化としてだけでなく、コミュニティの結束力や防災・災害復興の面でも注目されているため、とてもやりがいを感じています。



Q7 「第9回 Esri Young Scholars Award」の受賞について

北海道南西沖地震(1993)で甚大な被害を受けた奥尻島青苗地区における、震災前後の巡行ルートをGISを用いて可視化した研究成果が評価され、GISソフトウェアのトップシェアを占める米国Esri社の「Esri Young Scholars Award」※の最優秀者に選出されました。連絡をいただいた時には大変驚きましたが、これを励みに、今後も研究に専心していきたいと思います。

※地理情報システム(GIS)のソフトウェアで著名な米国Esri社によって、GISを駆使した研究を行っている世界の優秀な若手研究者に与えられる賞のこと。蟬塚さんは、北海道からは初の受賞となりました。

Q8 今後どのような進路を考えていますか。



学問の専門性にとらわれず、学芸員になるという夢を実現できるよう努力しています。また、コロナ禍で現地調査もままならないなか、修士課程の2年間はあっという間に過ぎ去ってしまいそうなので、研究をさらに深化させるために、博士課程進学も視野に入れ始めています。

Q9 受験を考えている高校生にメッセージ

私自身、人文学部で4年間を過ごして、北海学園大学での大学生活は、自分の行動次第でいくらかでも実りあるものにできたと実感しています。自分が苦手なことや、新たなことに挑戦する際には勇気が必要ですが、先生方や友人たちとの出会いを大切にしながら、大学に進学したからこそできる様々なことに取り組んでみてください。



人文学部における オンライン授業の 取り組みについて

2020
年度



2020年に始まった新型コロナウイルスの流行により、大学も大きな影響を受けました。人文学部では、新型コロナの感染拡大に伴い、多くの授業がネットによるオンライン授業に移行しました。本コーナーでは、2020年度における人文学部におけるオンライン授業の取り組みについて、講義科目と演習に分けて簡単にご紹介いたします。

※オンライン授業はまだまだ模索中であり、人文学部全体で同じ方法を採用している訳ではありません。

オンライン授業の種類（3つ）

- ①リアルタイム授業…授業のある時限にPC上から授業を受けるもの。
- ②ハイブリッド授業…教場で授業を行うが、同時にオンラインでの中継を行うもの。
学生は教場・オンラインのどちらかを選択して受講することができる。
- ③オンデマンド授業…講義や演習の動画を都合の良い時間に視聴するもの。

・**講義科目**…大人数科目のため、YouTubeや本学のLMS（学習管理システム）を用い講義動画の配信が数多く実施されました。たとえばヨーロッパ文化特論Ⅰでは②ハイブリッド授業を行い、教室での対面講義を継続しつつ、講義をそのまま録画してYouTubeにアップし、オンライン希望者は動画を視聴して受講しました。日本文化概論Ⅰでは、③オンデマンド授業を行い、YouTubeを使って、15分～20分の動画を毎回3本程度アップ。動画では、画面上に配布資料を映し、電子黒板（Microsoft Whiteboard）を使用してタブレットで書き込みながら解説を行いました（写真1・写真2）。学生は動画を視聴後、それに関する課題をネット上に提出して理解を深めていきます。



写真1 YouTubeを使った講義動画の配信（日本文化概論Ⅰ）



写真2 画面上の資料にコメントやイラストを記入しながら講義を行う

・**演習**…少人数科目のため、主に②ハイブリッド授業が行われました。ゼミ室にパソコンを持ち込んで中継し、オンライン受講を希望する学生はZoomやgoogle meetなどを通じて①リアルタイムで演習に参加し、対面授業と同じく、学生・教員みなで議論を行います。ゼミ室のスクリーンにZoomでの参加者を投影する演習もありました（6頁小柳ゼミの写真を参照）。発表者のレジュメはPDFで事前にアップし、画面共有を用いながら進め、また録画を学内限定で公開するなど、様々な学びの機会が提供されています。

オンライン授業を受けた学生の声は様々です。オンラインではペースがつかめない、演習で発言しにくい、動画のクオリティが低く対面授業のレベルに追いついていないといった厳しい意見もありました。また当初は、ネット環境の問題でうまく受講できなかった学生もいました（現在は学内にWi-Fiを用意して開放しています）。その一方で、繰り返し講義動画を見られるので教場よりも理解が深まるとの肯定的な意見もありました。

大学での授業は対面が基本であるとの思いは変わりません。しかしコロナ禍にあって学びをつづけるためには時代に応じた変化も必要です。オンラインの取り組みは始まったばかりです。人文学部では、よりよい学びの環境をこれからも模索していきます。

Seminar No.27

日本文化学科

片岡 耕平
3年ゼミ(1部)
【日本中世史】



このゼミの目標は、2つあります。1つは、歴史学研究に不可欠な史料読解の技術を身につけること、もう1つは、自分で調べた内容をまとめて発表する技術・発表された内容をもとに議論をする技術を身につけることです。

テキストは、鎌倉幕府の正史である『吾妻鏡』を使用します。とりわけ中世以降の日本の史料は、たとえ見た目は漢文であったとしても中国由来の文法に忠実ではない、日本化された漢文で書かれているものが多いです。そのような多少クセのある文章を読解できるようになるための基礎練習に適したテキストとして定評があります。

その中から、平治の乱で敗れ、伊豆国に流されていた源頼朝が平氏打倒を決意し、最終的に鎌倉幕府を樹立するまでの部分を輪読しています。そこには、平氏が都から追われ、壇之浦で滅亡するまでが含まれるわけですが、よく知られているように、この一連の経緯は『平家物語』の主題です。また、国を揺るがす大騒動に興味津々の京の貴族たちも、事の推移



を逐一自らの日記に記していました。

テキスト本文だけではなく、これらの史料もゼミ生たちの担当範囲です。自分の担当個所に関わる部分を探し出して読解します。マンガみたいな主従の絆や血沸き肉躍る合戦の様子、それに比べてどこか事務的な貴族たちの態度に触れながら、それぞれに独自のクセを持つ数種類の史料を読みこなす技術、必要な情報を探し出すためにデータベース・辞書類を使いこなす技術を身につけていきます。

主人公の頼朝たち武士、あるいは彼らによる合戦は、中世という時代を象徴する存在であり、現象です。この時代の雰囲気や少しでも感じてくれればと思います。

ゼミ紹介

Seminar No.28

英米文化学科

小柳 敦史
3年ゼミ(1部)
【ヨーロッパ文化論】



私は、英米文化学科で思想文化科目群のヨーロッパ文化論を担当しています。そこで、ゼミでも思想研究のアプローチからヨーロッパ文化を理解することを目指しています。「ヨーロッパ文化」は様々な要素から構成される複合的な概念ですが、ギリシア・ローマの古典文化と、ユダヤ・キリスト教の宗教的伝統が、ヨーロッパ文化を支えるとりわけ大きな2本の柱です。3年生の英米文化専門演習では、この2本の柱のうちのユダヤ・キリスト教の伝統について理解を深めるために、聖書やキリスト教に関連する英語の入門書を読みます。(ちなみに、2年生の人文科学演習ではもう1本の柱について学ぶために、プラトンが書いた対話篇(日本語訳)を読んでいます)

「なんで英語で読むの? 日本語で読んだ方が早く読めて、たくさんの知識が学べるのに」と思う人もいるでしょう。その疑問はもっともですが、あえて外国語でテキストを読むのには理由があります。それは、ヨーロッパ文化についての知識を増やすのと同時に、「テキストをゆっくり丹念に読む



力」も身につけることも、私のゼミの狙いからです。テキストを理解するためには、一つ一つの単語に込められた意味や、文と文をつないでいる論理に注意しなくてはいいませんが、母語の文章はついつい読み飛ばしてわかった気になってしまいがちです。その点、外国語の文章を読む際には、自然とスピードが落ちて、単語の意味や文の構造について考える訓練になるのです。

3年生のゼミでヨーロッパ文化についての知識とテキストを読むスキルを身につけた上で、4年生では、ゼミ生がそれぞれの関心に基づいて、ヨーロッパ文化に関係する様々なテーマの卒業研究に取り組んでいます。

人文学部 TOPICS

人文学部第8回大会

2020年12月10日に、第8回の人文学部大会を開催しました。今年度本学に着任した2名の教員が登壇し、自身のこれまでの研究の概要と、これからの展望を報告しました。

「歴史災害研究への
人文地理学からのアプローチ」
谷端郷（北海学園大学人文学部日本文化学科講師）

「平坂名の歴史における明治時代」
岡田一祐（北海学園大学人文学部日本文化学科講師）

第8回北海道観光地域振興特別講座

2021年1月25日に、第8回の北海道観光地域振興特別講座をオンラインで開催しました。本学OBの中川町職員高橋直樹さんに「Withコロナ時代の「観光まちづくり」—産業分野の地方公務員の仕事」と題して講演していただきました。

ゼミ選択に先輩のアドバイスを！ 学部3年生主催のゼミ説明会

2020年12月18日に、来年度以降の所属ゼミを選択する学部2年生を対象にしたゼミ説明会が開催されました。担当教員が書いた説明だけを頼りに選ぶ従来の方法では、それぞれのゼミの雰囲気が分からなかったと感じた酒井信貴さんと、その意見に賛同した佐生彩葉さん・真壁亜門さんなど学部3年生の有志計5名が企画・運営しました。各ゼミに所属している3年生に呼びかけて、約5分間のゼミ紹介動画を作成してもらうとともに、事前にそれを見て興味を持ったゼミの話聞きに来た2年生に詳しい説明をしてもらう方式で実施しました。

当日の人の集まりは思ったほどではなかったものの、熱心に説明を聞く2年生の姿が見られ、動画の平均再生回数も約40回ありました。企画・運営の学生たちは、それまで言葉を交わしたこともなかった同期と協力しながら、1つのイベントを立ち上げ、最後までやり遂げられたことは貴重な経験になったと話してくれました。今回が初めての試みであった上に、コロナ禍ゆえの様々な制約もあって反省すべき点・改善できると感じた点は多かったようですが、彼らは、それを踏まえた第2回のゼミ説明会が来年度開かれることを願っています。



学生に食糧を！ 食糧支援プロジェクト

コロナ禍の影響で、多くの学生がアルバイトの機会を失ったり、仕送りを減らされたりといった経験をしています。この苦境を乗り越える援けになればという趣旨で、2020年12月25日に教員有志主催の食糧配布が行われました。予想を上回る学生が集まったため、急遽翌1月26日に、今度は学生自治会主催で再び食糧が配布されました。日本文化学科2部2年生でⅡ部自治会執行部会長の阿部航也さんは、調達から配布まで率先して動きました。当日は、970名余りの学生たちが集まり、食糧を受け取りました。



ヒューマン 2021.2 Vol.16

表紙キャッチコピー：

文化についての深い理解を涵養することが異文化社会に生きる人々と真のコミュニケーションを結ぶ力になる、という人文学教育の理念をあらわしたものです。

文化を学ぶ 世界と繋がる



北海学園大学人文学部 日本文化学科(1部・2部)／英米文化学科(1部・2部)



〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 TEL.011-841-1161(代表) FAX.011-824-7729 URL <https://human.hgu.jp/>

制作・印刷：(株)アイワード PD：馬場康広 [(株)アイワード 2000年人文学部日本文化学科卒]